

廃棄物削減、リサイクル

事業を通じて排出する廃棄物を減らし、環境負荷の削減に努めています。

廃棄物削減・リサイクルの考え方

「廃棄物を出さない。出てしまった廃棄物はリサイクルする。リサイクルできない廃棄物は適正に処理する」。この考え方を基本に、事業を通じて排出する廃棄物の削減に取り組んでいます。最終処分場が年々不足し、埋め立て処理コストが値上がりしています。廃棄物の削減は、環境への負荷を減らすだけでなく、製造コストの削減にもつながります。

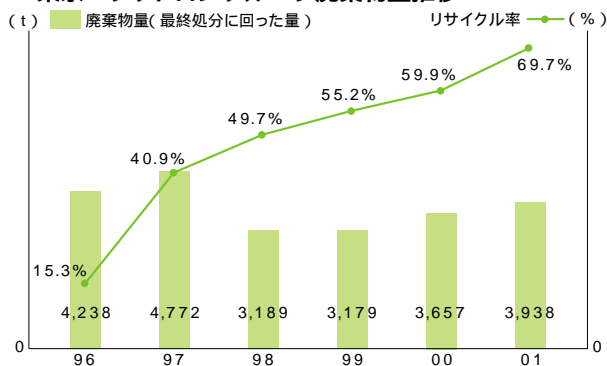
各工場ではゼロエミッションを目指して継続的に活動しています。リサイクルを促進するための分別回収とリサイクル先の開拓も積極的に行っています。そしてメーカーには単により製品を作るだけでなく、製造のあらゆるプロセスにおける環境配慮が求められています。処理を委託する業者の選定を厳密に行うなど、廃棄物処理法に基づく適正な処理を進めています。

廃棄物総量

東京エレクトロングループ全体で最終処分した廃棄物発生量とリサイクル率をグラフで表しました。年々リサイクル率を上げ、資源の有効利用に努めてきましたが、2000年度に比べリサイクル率は向上したものの排出廃棄物の総量は、若干増加しました。増加した廃棄物の内訳は、廃液が主体です。

1999年度からは製造系事業所に加えて事務所系事業所の廃棄物量も総量に含めています。生産量や工場の稼働状況によって廃棄物の発生量は増減しますが、今後も一貫して廃棄物の削減に取り組んでいきます。

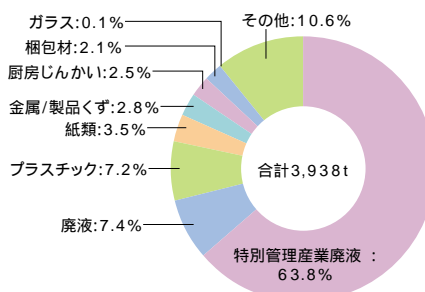
東京エレクトロングループ廃棄物量推移



廃棄物量内訳

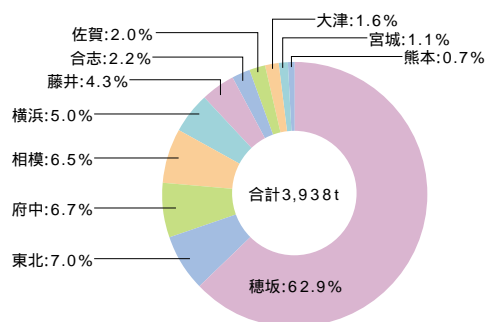
東京エレクトロングループの廃棄物のうち、廃液が全体の約70%を占めています。これは製造している製品の開発評価時に各種の薬液を使用しているからです。そのほかの廃棄物の総計はグループ全体で1,000t強なので、事業規模に比べ廃棄物の少ない業態と言えます。

2001年度 東京エレクトロングループ廃棄物量内訳



特別管理産業廃液:人の健康や生活環境に被害を及ぼす恐れがあるとして、政令で特別管理産業廃棄物に指定されている廃液

2001年度 地域別廃棄物量内訳



TOPICS

廃棄物削減取り組み事例 佐賀事業所

各事業所では廃棄物削減に関する専門部会を設置し、取り組んできました。中でも佐賀事業所では、最終処分する廃棄物量を1996年度に比べ90%以上削減しました。具体的な施策として、分別を徹底し、これまで廃棄していた金属やプラスチックをリサイクルし、有価物として販売できるようにしました。特に2001年度は固形廃棄物のリサイクル活動に注力しました。

リサイクル

リサイクルを効率的に進めるためには、まず廃棄段階での詳細な分別が重要です。各事業所ではそれぞれの特徴に合わせて24～29種類に細かく分別しています。対象物質として、紙類、飲料容器、木屑、ガラス、廃プラスチック、金属を中心に実施しています。継続的に取り組んできた結果、年々リサイクル率は上昇傾向にあり、2001年度のリサイクル率は69.7%と2000年度から約10%上げることができました。これは、各地区での廃液の廃棄方法の変更や、分別の徹底などの成果です。今後もよ

り一層有効なリサイクルができるよう各事業所にて努めてまいります。

廃棄物処理場・委託業者の管理

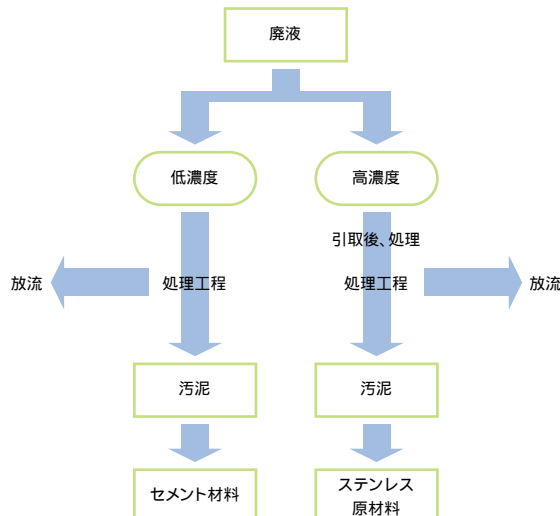
廃棄物の中間処理および最終処分業者については、事業所ごとに認定を行い管理しています。各事業所では、新規業者に廃棄物処理を委託する場合は、許可証の確認や現地確認などの認定調査を実施し、当該業者が廃棄物処理法に基づく適正な処理・処分ができることを確認しています。認定後も定期的に現地確認を行い、委託業者の廃棄物処理状況を把握しています。

TOPICS

リサイクル事例(1) 廃液のリサイクル 東北事業所

東北事業所では、従来廃棄物の7割を占めていた廃液について使用量の最適化と分別を行っています。高濃度と低濃度の廃液を分けて回収、廃棄物業者に処理を委託することにより、リサイクルが可能となりました。低濃度の廃液は、処理後残った汚泥がセメントの材料となります。高濃度の廃液は、2001年度からリサイクルを開始。処理後残った汚泥はステンレスの原材料や溶融剤としてリサイクルされています。これにより東北事業所では、リサイクル率が90%以上にまで向上しました。

廃棄物の70%を占めた廃液のリサイクル



リサイクル事例(2) 発泡スチロールのリサイクル 山梨事業所

部品を運搬する際に緩衝材として使われている発泡スチロールは、軽くてかさばるので廃棄するにしてもリサイクルするにしても運搬しにくい素材でした。そこで山梨事業所では発泡スチロールの減容機を導入して効率的にリサイクルしています。インゴットに減容した発泡スチロールは、業者に引き取られた後、ハンガーやカセットテープなどにリサイクルされています。

2001年度は約2tの発泡スチロールをリサイクルしました。



発泡スチロール減容機

リサイクル事例(3) オフィスにおける取り組み

2000年度、赤坂本社と府中テクノロジーセンターで先行して実施したオフィスでのリサイクル施策を、2001年度は他の事業所においても展開しました。例えば、機密保持のため文書類はシュレッダーにて裁断し、焼却処理していましたが、現在ではリサイクルに変更しています。通い箱で回収し、文書の内容が一切人目に触れることなくリサイクルされています。こうして2001年度、大阪支社では770kgの機密文書を紙に再生しました。

紙コップの材料を紙から非木材紙であるケナフに変更し、さらに紙コップをリサイクルする取り組みについても他の事業所に広げました。